

令和 5 年度 県立鉾田第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりの心や感動する心、挑戦する心を持ち、協働して物事に取り組める生徒 ○確かな学力と広い視野を持ち、主体的に課題解決できる生徒 ○高い志をもって仲間たちと切磋琢磨し、充実した学校生活を送れる生徒 ○地域を活性化し、地域社会に貢献できる生徒 ○6年間の教育計画により、全教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな教育を実践する。 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の特性を生かした授業時間数増、また、国語・数学・英語における少人数制学習やティームティーチング等により、基礎学力の向上を図ることができた。 ・ICTを活用した保護者との連携も積極的に行うことができた。今後は、ICT活用の質を高める工夫を行っていく。 ・引き続き生徒の主体的な活動を積極的に推し進め、学級活動、委員会活動、学校行事等の活性化を目指す。 ・授業や総合的な学習の時間において、体験的な活動を積極的に取り入れ、生徒の主体性を伸ばしていく。 ・部活動は、限られた設置数の中でも、活発に活動できるように指導助言を重ねていく。 ・学校ブログ等による情報発信を積極的に行うことで、地域からの理解を高めることが 	基礎学力・授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「単元テスト」の特性を活かし、基礎学力の定着を図る。 ・学習が知識の習得のみに偏らぬよう、思考力・判断力を育み、「自ら課題を発見し、解決する力」の向上を図る。 ・授業力向上のため、教員間の相互授業参観と校内授業研修を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・指導力向上のため、職員が教材研究や自己研鑽に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の相互授業参観のさらなる促進
	個に対応した指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習状況を適切に見極め、指導方法・指導内容を工夫し、少人数学習の特性を最大限に活かす。 ・特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を実施し、組織的対応を図る。 ・ICTの活用により、個別最適な学びを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた個に応じた指導の促進
	進路意識・進路実績の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や希望進路実現につなげる。 ・各学年の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方や生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させると共に、悩みや不安に寄り添う時間とする。 ・進路に関する講演などで収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・難関国公立・私立大学へ合格を目指し、基礎学力や学習習慣、学習意欲の涵養を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での学習と部活動をイメージした生活習慣の確立 ・自己の将来を意識させるキャリア教育
	特別活動・部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への主体的な参加を促し、学級活動や委員会の活動にも主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部ごとの活動目標を明確にし、県大会以上の大会に出場できる部活動を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が積極的に学校行事や部活動に取り組める環境づくり ・部活動での県大会進出 ・部活動の計画的な運営

できた。ホームページ、アンケートなどの広報広聴活動を工夫する。		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを効果的に活用するために、生徒自身の足跡をきちんと残せるように指導する。 	
	マナーや規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら考え、率先してルールやマナーを順守しようとする態度を育てると共に、全職員が共通理解をもって指導にあたる。 ・異学年交流をとおして、生徒の自己有用感を高めることにより、規範意識の向上を図る。 ・全体的な取り組みと合わせて、生徒一人一人の特性や発達段階に応じた指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な話し合い活動 ・校則に対する意見交換の場の提供 ・上級生から下級生へのアドバイス
	学校評価の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などをとおして家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動を充実させ、保護者目線を基準にして、学校を活性化させる。 	・より充実した広報活動
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度末の月の超過在校等時間45時間超え者ゼロを目指す。 ・年間の休暇取得日数20日間を目指す。 ・学校行事や教育活動の見直しを図り、目的と目標を明らかにした効果的で効率的な教育活動を実践する。 ・ICTや校務支援システムを積極的に活用し、校務事務の効率化を図る。 ・日常的なコミュニケーションを大切にし、同僚性の向上と風通しのよい職場づくりをめざし、協働して業務に取り組める体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間45時間超え者ゼロを達成できた月はなかったが、12月の平均時間外在校時間は26:12と、年度当初より減少した。個々の職員のタイムマネジメント意識が向上した。 ・年間休暇取得日数は平均18.9日。休暇を取りやすい雰囲気が醸成できた。 ・日常的なコミュニケーションにより同僚性が向上し、協働体制が構築できた。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
国語	・国語への興味関心の高揚と基礎的な知識の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館や地域の図書館を強化し、読書指導の充実を図る。 ・漢字、語彙の学習をとおして、表現に必要な基本的な知識を身につけさせる。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・読書指導の充実 ・論理的な表現力と理解力の育成
	・生徒が主体的に言葉への自覚を高める学習の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報と自らの知識と経験を結びつけ、自分の考えをまとめ、表現する力を高める授業の工夫をする。 ・ICT機器を活用して、言語活動の充実を図る。 	A		
	・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・探究のプロセスを意識した単元構成や課題の設定の工夫を行う。 	A		
			A		
社会	・確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の単元において、課題を適切に設定し、課題解決的な学習を実践する。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決的な学習の推進 ・ICTを活用した教材の工夫
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト等を活用して生徒理解を適切に行い、基礎的内容の定着を図る。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を適切に取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な学習参加を促すため、教材を工夫し、「わかる授業」の展開を 	A		

		図る。			
		・ICT教育のさらなる推進を行うために、パワーポイントやデジタル資料等、Chromebookの適切な活用を図る。	A		・生徒の思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の改善
		・大学入試共通テストを見据えた学力の育成について、指導方法の研究を適宜行い、表現力等の向上を図る。	B		
	・現代の社会への関心の高揚	・我が国の伝統や文化、法や金融、消費者行政、人権等に関する諸問題を取り上げ、現代の社会への興味・関心を高める。	B		
	・授業改善	・課題を多面的・多角的に考察する力の育成を図るため、ICTや各資料を効果的に使用することで、「わかる」授業となるように工夫する。	A		
数学	・きめ細かな授業の展開	・生徒の理解度を把握して、授業の展開や説明方法を工夫する。	A	B	・生徒の理解度に応じた指導の工夫 ・学習意欲向上のための支援 ・中高連携の強化
		・1学級を2つに分けるなどして、丁寧な指導を行う。	A		
	・家庭学習習慣の確立と応用力の養成	・問題集等の課題により、家庭学習習慣の確立を図る。	A		
		・授業で問題演習の時間を確保し、発展的な内容も扱う。	A		
	・意欲をさらに高める指導	・難度の高い問題も提供し、生徒のさらなる意欲と数学力の伸長を図る。	B		
		・生徒の質問に、内容に応じて適切に対応する。	A		
・授業改善	・授業参観を相互に行い、意見交換を行う。	B			
	・中学・高校の枠を越えて、問題の解法や指導方法について研究し、授業に生かす。	B			
理科	・学力の向上	・単元テストを実施し、知識の定着を図る。	A	A	・次年度以降のための授業環境の整備 ・科学的思考力の育成を意識した教材研究 ・生徒の主体的な活動の支援 ・高校の教員との更なる連携
		・生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業を工夫し学習活動を充実させる。	A		
	・設備、備品の充実	・設備備品を整備し、学習環境をより良いものにしていく。	B		
		・Chromebook、GSuiteを中心としたICTの効果的な活用を行う。	A		
	・生徒の学習意欲の向上	・実験・観察による学習をとおして興味関心を持たせ、学習意欲を向上させる。	A		
	・授業改善	・生徒の発問をもとに本時の課題が設定できるように授業を展開する。	A		
・高校の教員と連携しながら、より専門的な教材研究を行う。		B			
音楽	・音楽表現への意欲	・視聴覚教材等を利用して分かり易い授業の展開を図り、音楽・音楽文化への興味関心を高め、音楽表現への積極的な取り組みを促す。	A	B	・ICTを使用しての授業展開 ・演奏のための技術の向上 ・表現方法の工夫
	・表現の技能の習得	・様々な楽器の演奏を体験させ、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけさせる。	B		
	・音楽に親しむ態度の育成	・古典的な音楽から現代音楽まで幅広い音楽を視聴することで、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養う。	A		

	・授業改善	・ICTの効果的な活用と、楽器を使用しての楽しい授業展開	B		
美術	・表現力や創意工夫、主体的に取り組む態度の育成	・美術作品の良さや造形的な視点について理解することで、表現方法を創意工夫し、自ら創造的に表す態度を育てる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 技法や創造的に表すことのできる題材の工夫 ICTによる視覚資料の改善 身近な作品に対する鑑賞能力の向上 個々のニーズに合わせた指導の充実と意欲向上のための支援
	・個々の能力を伸ばす工夫	・個々の力を伸ばすため、補助や助言を行ったり、手本を示したりして、個人指導の充実を図る。	A		
		・積極的な作品づくりを促し、技能を伸ばすとともに、様々な表現技法を習得させる。	A		
	・美術文化へ関心と、鑑賞する能力の向上	・美術作品に触れる機会や生活の中の美術の働きを考えると、鑑賞の能力を高めるとともに、芸術を愛好する心を育む。	B		
	・授業改善	・積極的に発表する機会を設ける。	A		
保健体育	・体力の向上	・新体力テストの総合評価を伸ばす。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間をとおした計画的な体力の向上 クロームブックの活用の増加 グループ活動での共同作業 活発な意見交換
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。	A		
	・授業の充実	・授業をとおして運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。	B		
	・規範意識の醸成	・授業をとおして、ルールやマナー及び時間を守る態度を養う。	B		
	・副教材を利用した授業の工夫	・Google Classroom、パワーポイント、DVDなどを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。	A		
	・授業改善	・グループ活動時間の確保をし、活発な意見交換などができるようにする。	A		
技術	・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力の向上	・授業の中に身近な生活に関する情報を取り入れ、生活における課題を見つけることができる発問の工夫をする。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活の課題と結びついた発問の工夫 見方・考え方の工夫 見通しをもった授業の展開 情報活用能力の向上
		・思考ツールなどを活用した対話的活動を多く取り入れ、生徒が多角的に課題をとらえ解決できるようにする。			
	・見通しをもつことができる学習展開	・基礎的な技能や知識を事前に習得したことを実習や実験につなげ、生徒が主体的に取り組むことができるようにする。	A		
		・題材における学習計画を伝え、学習内容の見通しをもたせることで理解力の向上につなげる。	A		
	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最小限心得ておくべき資質を身に付けさせる。	A		
	・情報セキュリティ意識の向上	・情報活用に関する興味関心を持たせるだけでなく、情報化の負の部分にも配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を育てる。	A		
・授業改善	・グループ活動時間の確保をし、活発な意見交換などができるようにする。	A			
家庭	・基礎的な知識と技術の習得	・生活に関する基礎的な知識と技術の習得を図る。	A	A	・生活に関する基礎知識

	<ul style="list-style-type: none"> 生活の向上を図る実践的態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 生活に関する情報を授業に取り入れ、社会の変化に対応できる能力を養う。 	A		と技術の習得
	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して生活向上に関する情報を取り入れることができるようにする。 	C		<ul style="list-style-type: none"> 生活に関する情報収集力の向上
英語	<ul style="list-style-type: none"> Google Classroomを活用し具体的目標を意識させた学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に生徒が学習できるよう、Google classroomの活用。 予習や宿題、課題テスト及び単元末テスト等へのICTの活用。 意欲的に英語学習ができるよう英検、ALTの活用。 定期的な英単語テストの実施により、学習の習慣化。 学年末にTOEIC BRIDGEを全員受検し、到達度を確認。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 単語テストによる学習習慣の試行と確立 生徒の英語使用を増加させる活動の導入 生徒の状況に応じた習熟度別学習の実施
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様な学力に応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数制学習の利点を生かし、授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる4技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 補習やclassroom等をとおして、個別対応を充実。 個々の英語力に応じてサイドリーダーを利用して多読を奨励。 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> 「聴く・話す・読む・書く」の4技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践。 	B		
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成のための授業の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめること、人間としての生き方についての考え等を深めるために、話し合い活動等を充実させることにより多様な価値観にふれることをとおして、道徳的实践力を育てる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が多様な価値観にふれるための諸活動の工夫 道徳的实践を意識した授業デザインの推進
	<ul style="list-style-type: none"> 道徳資料の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の教科書に加えて、日常生活や社会の出来事など、身近な出来事を教材化し、生徒が積極的に話し合える授業を行い、道徳的価値を十分に考えることができるようにする。 	B		
	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全体を通じた道徳 	<ul style="list-style-type: none"> 特別の教科道徳を教育活動全体の要とし、全教育活動をとおして道徳教育を推進するとともに、生徒の発達段階や特性等を適切に把握し、指導内容の重点化を図る。 	B		
	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が多様な価値観にふれることができるような学習活動の設定を図る。 	A		
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習への取組 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の良さを実感するために、生徒の知的好奇心を刺激し、銚田市や自分の住む地域を積極的に調べようとする意欲の高い生徒を育てる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習を軸とした教科横断的な学習指導の強化。 校外学習等における地域連携の質の向上。
	<ul style="list-style-type: none"> 社会や地域活動への参画 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習をとおして調べたことや実践に生かすため、自分の地域の活動に参加したり、地域に貢献できる活動を行ったりして、社会参画しようとする意欲を育てる。 	A		
教務	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間を確保するとともに、曜日毎の授業時数の均等化を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 中高連携の充実 各分掌との協働の向上

	・充実した授業を目指した教育課程の編成	・各教科と連携し、生徒の学力や希望する進路に即した教育課程を研究し、編成する。	B				
		・少人数制学習におけるグループ編制を工夫するなど、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。	A				
	・行事等の円滑な運営	・各分掌とのコミュニケーションを密にし、学校行事の日程やそれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。	A				
	・成績等の円滑な処理	・情報管理部と連携し、校務支援システムを活用した成績処理や各種帳票類の作成を円滑に進める。	A				
総務企画	・本校の魅力や生徒の活動の積極的な発信による「銚一ブランド」の確立	・スクールガイド、ポスター、プロモーション用動画の作成 ・進学フェアへの参加	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学フェア等での更なるプロモーションの実施 ・学校評価アンケートの分析による教育活動の改善 ・学校公式ウェブページの内容の更なる改善 		
		・オープンキャンパス（小学生対象）の企画、運営 ・学校公式ウェブページの内容の充実	A				
	・本校に対する外部の声の広範囲からの収集	・学校評価アンケートの実施、集計、分析	B				
生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心安全に学習活動・部活動に取り組める生活環境の整備 ・基本的生活習慣と規則を守る態度の育成 ・各学年及び各部所と連携した生活指導の推進 ・高等学校への接続を意識した生徒指導の推進 	生活関係		A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な言葉かけの継続・すぐに相談できる環境づくり ・継続的な交通指導（主に自転車） ・注意喚起のチラシ等クラッシーを通じた保護者への配信 		
		・制服・私服選択制の導入にとまない、どのような服装をすべきかについて、生徒が主体的に考え、行動できるよう啓発を図る。	B				
		・校則の廃止にとまない、学校生活について生徒が主体的に考え、行動できるよう啓発を図る。	A				
		・集会等でルールやマナーについての意識の啓発を図る。	A				
		・登校指導を実施し、挨拶の励行を徹底する。	B				
		・さわやかマナーアップ運動をとおして、マナー・モラルの向上を図る。	A				
		・時間を自己管理できるよう、継続的に声をかけ、時間を守る意識を高める。	A				
		・貴重品の管理及び移動教室時の施錠を生徒が自主的にできるよう啓発を図る。	A				
		・スマートフォンの使用について、ルールやマナーを遵守できるように啓発を図る。	A				
		・校内巡視を実施し、生徒の様子を直接把握するよう努める。	A				
		・いじめを絶対に許さない姿勢といつでも相談できる受容的な姿勢を、教員間で共有し、生徒に発信し続ける。	A				
		・非行や事故等の未然防止と早期発見に向けた取組	交通関係				
			・公共交通機関における利用方法に関する指導			A	
	・交通安全講話の実施		A				
	・自転車点検及び交通安全指導の実施	A					

		問題行動未然防止対策	A				
		・被害調査（アンケート等）を実施し、問題行動の早期発見・初期対応に努める。	A				
		・インターネット利用講座の実施とスマホルールづくり等の保護者への協力を依頼する。	A				
		・長期休業前に生徒指導部からのお知らせを発行することによる問題行動等の未然防止を図る。	A				
		・薬物乱用防止教室を実施する。	A				
	・スクールバスの円滑な運行と安全確保	・生徒の乗車希望調査を綿密に行い、銚田二高、委託バス会社さらに校内各組織と緊密に連絡をとりながら、限られた運行条件・運行資源のなかで最大限乗車需要に応えられる運行計画の策定と適切な案内・安全を保つ乗降指導を行う。	A	A	・高校との連携及び計画的運営		
	・支援が必要な生徒の早期発見	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報 ・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討 ・学年会議での情報収集 ・生徒情報の整理と関係者によるミーティング	A A A A	A	・支援が必要な生徒の早期発見 ・カウンセラー、保護者と連携した適切な援助活動		
	・適切な援助活動の実施	・援助が必要な生徒との面談・必要に応じた保護者との面談 ・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助 ・スクールカウンセラーとの連絡、調整 ・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議 ・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施	A A A A B				
進路指導	・体系的な進路指導の実施	・中高一貫教育の利点を活かし、6年間を見通した上で、高校での学習を意識した進路指導を行う。 ・1学年では、学習習慣を確立させるとともに、手帳等を活用して、計画的かつ自律的に学習を進められるよう支援する。 ・2学年では、課題解決型の自律的な学習方法を身につける等、生徒の学習の質が向上するよう支援する。 ・3学年では、生徒たちに高校での学習や生活リズムを意識させ、学習の質や意欲がさらに向上するよう支援し、高校への円滑な接続を目指す。	B A A A			B	・学力推移調査の結果の指導への活用 ・手帳の活用に関する指導方法の向上 ・家庭での学習習慣の確立 ・高校までの6年間を見通した学習指導の確立
	・学習習慣の確立（平日の最低家庭学習時間 学年＋1時間の確保）	・家庭での学習習慣を確立させるため、手帳やクラッシー等の学習記録機能を活用するなどして、日々の取り組みを可視化させる。 ・学習実態調査の実施（年3回）	A				
	・効果的な学習指導法の研究と実践	・「授業評価」（授業アンケートの実施、「授業参観メモ」の配付） ・先進校視察等、研修の機会を設け、指導法等の研鑽に努める	B				
	・進路情報の収集と提供	・生徒面談をとおして、生徒の動向の把握に努める。	A				

		・研修会等に参加して、情報の収集に努める。	B		
		・進路資料、情報誌の配付などをおして、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。	B		
	・学力向上	・各学年や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報を共有化して指導を行う。	B		
		・各学年や教科で連携しながら、生徒の家庭学習の習慣化を図る。	A		
	・学習環境の整備	・平日や休日に自学自習の場として尚志館を開放し、生徒の自学自習の習慣化を図る。	B		
特別活動	・学校行事の改善	・各種学校行事の内容の一つひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な実施 ・生徒主体性に基づく行事運営 ・高校との行事や部活動との連携
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。	A		
	・部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部・同好会への加入率 80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」で啓発する。 ・それぞれの部・同好会が特性を活かし、各種大会・発表の場に参加し、活動範囲を広げられるよう支援する。 ・日々の活動や生活の中に規範意識を持つとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。 	B		
	・学級活動の充実	・学校行事や進路指導に伴う学級活動だけでなく、レクリエーション等、各学級活動ならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動をおして協調性や団結心を養う。	A		
	・キャリアパスポートの活用	・生徒一人一人が自分の足跡を残せるように意識させ、記録を残していけるような助言・支援を行う。	A		
			A		
保健安全	・保健衛生的習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断を行い、適切な保健指導を実施。 ・保健室の円滑な運営。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果の把握と事後措置 ・保健指導の継続による健康意識の向上 ・改修工事後の校内環境の衛生、美化、安全
	・清掃活動の徹底	・日常的な清掃活動（校舎内外の美化）を適切に実施。	A		
	・防災意識の高揚	・防災訓練を実施。	B		
	・環境衛生の整備	・環境衛生点検の定期的な実施。	A		
	・学校欠席者情報システムへの報告	・欠席状況を把握し、毎日システムへの適切な入力を実施。	A		
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・教員間が連携し、受傷者を把握して、有効に活用。	B		
	・放射線の測定	・放射線の定期的な測定と報告の実施。	A		

図書館	・教育課程等の展開に即した資料の充実	・図書館部予算的的確な執行。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書廃棄の円滑化 ・書架整理の推進 ・教科と連携した読書感想文、読書感想画コンクールへの応募 ・委員会活動を通じた広報活動の工夫 ・高校生、高校担当の教員を交えた委員会活動の活発化
		・購入希望図書の調査を実施による、図書の貸し出しと図書館の利用機会の増加。（教員・生徒対象）	A		
		・より良い図書を選定するための情報収集。	B		
		・探究活動に対応した選書をし、授業で利用できる資料の充実。	B		
	・読書、鑑賞等をとおして教養を深め、豊かな人間性を養わせる。	・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施。	A		
		・読書会、移動図書販売等をとおして、読書に対する興味・関心の向上。	B		
	・図書館の正しい利用の態度を養い、自学自習の場としても利用させる。	・図書館の正しい利用の態度の育成。	A		
		・各学年・高校とも協力し、自学自習の場としての静粛と秩序の保持。	A		
	・生徒図書委員活動をとおして、生徒の自主性を養わせる。	・部職員の指導の下、委員会活動を活性化。	A		
		・図書館総選挙の投票集計と結果作成・学校行事における図書館の展示等に、生徒図書委員の関わり強化。	A		
	・図書館管理システムの整備を進め、利用の向上を図る。	・バーコード管理システムを活用し、入力・装備の整備等を実施。	B		
		・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新。	A		
渉外	・コロナ禍における状況の変化に対応した事業の遂行	・事業の段階的な実施を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会組織との連携強化及び適切な役割分担 ・生徒に資する活動の拡充
		・事業の段階的実施に伴う、適切な方法の選択を図る。	A		
	・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・「銚一メール」活用によるペーパーレス化を図る。 ・GoogleForm活用によるアンケート作成・集計のデジタル化を推進する。 	A		
・後援会組織の適切な構築	・後援会組織の役割を精査し、会務をスムーズに行うように努める。	B			
1 学年	・基礎学力の向上	・英語、数学、国語で必要に応じて習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着と向上を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の声かけを通じた学習習慣の定着と基礎学力の向上。 ・課外活動への参加促進
	・家庭学習の習慣化	・授業、復習の重要性を認識させ、生徒の家庭学習時間が1時間以上行われるよう指導し、基礎力の充実を図る。	B		
	・進路についての意識	・個人面談、講演会等のキャリア支援をとおして、自己理解・社会理解に努め、自己実現の素地を養う。	A		
	・基本的生活習慣の定着	・「集団の規律を守り、個々が快適な環境を作るための責任を持つ」という意識を持たせる。その実現を図るために、身だしなみ、挨拶、清掃及び時間厳守について指導する。	B		
	・生徒への対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に情報を学年で共有し、養護教諭や教育相談部及び保護者との連携に努める。	A		
	・課外活動の促進	・部活動、校外での学習活動等への参加を勧め、様々な自己表現の機会を与え、	B		

		内面の成長を促す。			
2 学年	・基礎学力の向上	・英語、国語、数学での少人数及びチームティーチング授業を充実させ、必要に応じて習熟度別学習を行うなど、基礎・基本の定着を図ることに努める。 ・模試によって、自分の実力を把握し、普段の学習にフィードバックさせる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本定着にむけ、単語テストや漢字テスト等へのモチベーションを高める声かけ ・家庭学習習慣化への継続した支援 ・道徳やHRの時間での規範意識の醸成 ・複数の視点での丁寧な生徒観察 ・学年間、教師と保護者間の更なる連携強化
	・家庭学習の習慣化	・授業を学習機会の最重要点と認識させ、(予習→)授業→復習のサイクルの定着を改めて行い、家庭学習の習慣を確立させ、学習の支援に努める。	A		
	・進路意識の高揚	・個人面談、進路講話等のキャリア支援行事を通し、自己理解・社会理解に努め、自らの進路を考える時間を確保させ、進路に向けた生徒自身の意識の高揚を図る。	B		
	・基本的な生活習慣の定着	・個々が快適な環境を作るための責任を持つという意識の醸成に努め、集団の規律を守ること、社会的な言動とはどのようなものかを考えるなど、集団生活に必要なことを一つ一つ身につけさせていく。	B		
	・個々の生徒への適切な対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に学年で情報を共有し、教育相談部及び保護者との連携に努める。	A		
	・課外活動の促進	・部活動、長期休業中の課外、校外でのボランティア活動等への積極的な参加を勧め、様々な機会の中で自己実現の一助とする。	B		
3 学年	・高校入学後につながる学力の維持と人間力の育成	・授業中心の学習活動を通し、授業の大切さを理解させるとともに全国レベルの実力を養う。高校進学後も学力を維持し伸ばしていけるように、確かな基礎学力・表現力を身につける指導を実践する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高校進学に向けての計画的な学習指導 ・学年間、教師と保護者間の連携強化
		・日常の生活での自己管理を徹底させるとともに、家庭学習の習慣化と自学自習できる力を育む。また、学習と並行して進路のことについても考えを深め、将来の希望進路を考えながら学習に打ち込む生徒を育成する。	A		
		・学力の向上を図るための努力を惜しまず、全国模試を定期的に受験させ、全国レベルでの学力を客観的に把握させるとともに実践的学力を養う。	A		
	・進路希望の実現に向けた細やかな指導	・進路目標の実現に向けて、個々に応じた面接指導を頻繁に展開し、目標の確認と反省、学習計画の見直し等を図り、きめ細かな進路指導を実施する。	A		
		・詳細なデータ分析を基に、どの生徒に何を求めていくかについて、関係する学年スタッフ間で共有し、生徒に提供する。	A		
		・図書館や進路室を活用して生徒自ら進路情報を収集させるとともに、自主的に学習に取り組み、進路目標を達成できる学力・精神力を涵養する。	B		
	・銚田一高附属中生としての誇り・自覚の高揚と地域・社会の中核となるべき人間	・「文武不岐」の伝統の下、部活動や学校行事に積極的に参加させる。その中での人と人との関わりをとおして、コミュニケーション能力、問題解決能力等を育む。	A		

	の育成	・様々な活動の中で、常に銚一附属中のよりよき文化と校風の創造者としての自覚を持たせ、リーダーシップを発揮できるよう指導する。	A		
--	-----	--	---	--	--

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分